

脱炭素先行地域とは…

2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてそのほかの温室効果ガス排出削減についても、日本全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域のことで、「実行の脱炭素ドミノ※1」のモデルとなるもの。これまでに3回募集が行われており、全国32道府県83市町村の62提案が選定されている。近畿圏では1県10市町の10提案が選定されており、大阪府内では堺市が第1回目の提案募集時に選定されている。

その意義は、単に地球温暖化等環境問題の解決に資するだけではなく、行政・地域の企業・市民など地域の関係者が主役になって、今ある技術を使って再エネ等の地域資源を最大限活用することで地域の成長を実現でき、地域経済を循環させ、防災や暮らしの質の向上など、地域の課題を併せて解決し、地方創生に貢献することにある。

現在、本市においても脱炭素先行地域計画を提案するべく、 庁内でプロジェクト・チームを立ち上げ検討・策定作業を実施中。

これまでの経過

- R5.5.8 プロジェクト・チーム設置。
- 脱炭素先行地域計画策定するにあたり特に関係が深い10課の職員からなる。
 - すでに計画が進んでいる「パンダバンブー地域循環共生圏プロジェクト※2」などがあることや、海から山までという本市の特徴を勘案し、「里山」・「里海」の観点からゆめみヶ丘エリアと臨海部を本市域の「先行地域」とすることなどをチーム内で検討。
- R5.6.16 脱炭素先行地域計画の概要案を作成し、環境省近畿地方環境事務所において協議。
- ゆめみヶ丘エリアは新しいまちであり、住宅における太陽光発電機器の普及などすでに脱炭素化が進んでいるため、新しいまち以外のエリアを含めて脱炭素化していく意思を見出すべきであることや、ゆめみヶ丘エリア（里山）と臨海部（里海）との関連性（ストーリー性）が不明確であることなどについての指摘を受ける。

▶ 「先行地域」とするエリアの再考も含め、脱炭素先行地域計画の再検討中。

※1 脱炭素ドミノ…脱炭素における地域の集中的な取組が全国の各地域に次々と広がること。

※2 パンダバンブー地域循環共生圏プロジェクト…岸和田市と株式会社アワーズとの連携協定のもと実施しているプロジェクト。岸和田市産の竹の枝葉を、和歌山県白浜町にあるアドベンチャーワールド（株式会社アワーズが運営）のジャイアントパンダが餌として食べており、ジャイアントパンダが食べない竹幹の部分（通称：パンダバンブー）を有効活用するプロジェクトが進行中で、ゆめみヶ丘エリアに竹の加工場となる「パンダバンブーfactory」を建設予定。